

「ネットパトロール」の手法と情報の活用法について



「ネットパトロール」という言葉は、子どもたちのインターネット利用を監視しているようで、よい印象を持っていない人もいるかもしれませんが、子どもたちをネットトラブルから守るためには、大人が子どもたちのインターネットの使い方を知っておく必要があります。

「監視」ではなく「見守り」

考え方としては「子どもたちの問題のある行為を見付ける」というのではなく、「子どもたちの利用を見守る中でトラブルに繋がりそうな行動を把握する」ことに重点を置く必要があります。個人が特定される書き込みや画像の投稿など、不適切な書き込みを検出し、いち早く改善させ、子どもたちをトラブルから守ることが大切です。

ピットクルーが行った平成29年度のネットパトロールでは、検出された書き込みの97.7%が「ツイッター」からでした。子どもたちはツイッターを使って、顔を知っている人、知らない人を問わず、様々な人と交友関係を築いています。その繋がり方を知ることがネットパトロールのポイントになります。

ツイッターの検索方法

ツイッターの中で検索を行いたいときには、検索サイトで下の図のように検索してみてください。

学校名

※学校名の部分は〇〇中学校のような正式名称だけではなく、子どもたちが普段使う略称なども入れてみましょう



「site:〇〇」を使った検索方法をドメイン指定検索と呼び、これを使うことで検索範囲を指定されたドメインに絞り込むことができます。これを用い、ツイッターの中から学校名を書いている子どもを検索します。

ただ、御家庭で子どもの書き込みを探す場合は、直接本人に聴く方が有効です。ツイッターのようなSNSをプライベートな場所と考える子もいますので、検索してパトロールすることは、子どもにとって「勝手に見られた」と悪いイメージを生むことがあります。

御家庭での対応

「インターネットの中に書き込むこと＝悪いこと」ではありません。不適切な書き込みを見つけた場合、それをすぐに消させるのではなく、問題があれば「何がよくないのか」を一緒に考え、子どもたち自身で自分の行動を改善させていくことができるように指導することが大切です。

また、保護者もSNSを始めしてみるなど、インターネットを子どもとの会話の糸口として活用することも、子どもにインターネットの使い方を意識させ、何かあったときに相談しやすい環境を作るためのポイントになります。